

2021年3月期第1四半期

決算説明会（電話会議）

要旨

開催日時：2020年8月4日（火）15：00～16：00

旭化成株式会社

業績予想の適切な利用に関する説明 その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

会社側参加者：

取締役 兼副社長執行役員 柴田
経理部長 佐藤
基盤マテリアル事業本部 企画管理部長 高橋
パフォーマンスプロダクツ事業本部
企画管理部長 桑葉
スペシャルティソリューション事業本部
企画管理部長 杉山
スペシャルティソリューション事業本部
セパレータ事業統括部長 福田
旭化成エレクトロニクス 企画管理部長 川田
旭化成ホームズ 経営管理部長 坂井
旭化成ファーマ 経営統括総部長 柏木
IR室長 濱本

柴田 この第1四半期の業績は新型コロナウイルスの影響を大きく受け、2019年度第1四半期（以下、前年同期）比で減益となった。当社は社会のニーズの変化に合わせて新しい事業を展開することで持続的な成長を目指してきている。10年前のリーマンショックでも当社の事業は大きな影響を受けたが、それ以降、皆様の生活に直接イノベーションの成果をお届けする事業の割合を増やしてきている。

2020年度のスタートに際しても、旭化成の多様性を活かして、新型コロナウイルスのマイナス影響をいろいろな事業で打ち消し合っ、結果としてプラスを達成していきたいと説明したが、予想以上に自動車、アパレル関連の需要が大きく減退し、関連の事業が影響を受けた。それに加えて、原材料価格、製品価格の市況の変動の影響も大きかった。

一方「ヘルスケア」では、日々の生活を支えるのに欠かせない事業が多いことに加えて、新型コロナウイルスの関連で人工呼吸器や医薬品の製造に使用するウイルス除去フィルターなどの需要が伸びたため、新型コロナウイルスの影響を多少相殺することができた。

5月の2019年度決算発表では、2020年度通年の業績予想については未定と説明した。現時

点では特段のことがない限り、世界経済全体は第1四半期を底に第2四半期以降徐々に回復していくという見通しを立てており、今回はその前提で通期の営業利益予想を開示した。

「住宅」と「ヘルスケア」は活動している地域やサプライチェーンが比較的シンプルだが、「マテリアル」の各事業では複雑である。そのため事業ごとではなく、関連市場全体の状況を勘案して方向感を示す予想としている。

新型コロナウイルスの影響はまだ多くの不確定要素があり、米中貿易摩擦の動向も予断を許さない状況のため、変化があればまた見直しを行う。また定性情報として、売上高の通期予想を決算説明会資料に記載している。

P3 第1四半期実績のポイント

第1四半期の営業利益は、新型コロナウイルスの影響により前年同期比で「マテリアル」は減益だが、「住宅」と「ヘルスケア」は増益となった。

「マテリアル」の各サブセグメントの状況は次の通り。基盤マテリアル事業は数量減に加えて、石化原料市況の悪化による在庫影響や、アクリロニトリル（以下、AN）の交易条件悪化等によって減益となった。パフォーマンスプロダクツ事業も自動車、衣料関連市場の大幅な需要減退の影響を受けて減益となった。一方で、スペシャルティソリューション事業は通信インフラやタブレット端末の需要が好調に推移したことや、リチウムイオン電池（以下、LIB）用セパレータの販売が堅調に推移したことから、増益となった。

「住宅」は、不動産部門における分譲事業が堅調に推移したことに加えて、2019年度末に新型コロナウイルスの影響で部材の納入が遅れ、一部引渡しが当期にずれたため増益となっている。建築請負部門の受注は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために展示場来客の制限をしたこともあり、前年同期比では低迷しているが、第1四半期の後半から徐々に回復している。

「ヘルスケア」では、Veloxis Pharmaceuticals Inc. (以下、Veloxis) ののれん等の償却負担があった。さらに新型コロナウイルスの影響で、国内・海外ともに患者の通院や営業活動が制約されたが、需要が増えた人工呼吸器やウイルス除去フィルターの販売数量が伸長したため、増益となった。

P8 主要決算数値

第1四半期の売上高は4,552億円で、前年同期比9%の減収となった。営業利益は301億円で27%の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益(以下、当期純利益)は136億円で44%の減益となった。

P9 連結損益計算書

売上総利益は粗利率32.9%でほぼ前年同期並みだが、「ヘルスケア」の割合が増えたため若干上昇している。

販管費が1,198億円で、前年同期比で若干減少している。新型コロナウイルスの影響で旅費・交通費等の経費が減少したが、Veloxisの買収に伴うのれん償却等や労務費の増加によって販管費の減少は小幅にとどまった。営業利益は301億円となった。

営業外損益は前年同期比で25億円悪化しているが、持分法投資損益の悪化が主な理由だ。タイのPTT Asahi Chemical Company Limitedの業績が、ANの市況悪化等による影響を受けた。

特別損益は48億円のマイナスで、前年同期比で45億円悪化している。海外子会社の事業構造改善費用を計上したことが主な理由だ。

当期純利益は136億円で、前年同期比で108億円の減益となった。

P10 連結貸借対照表

2020年3月末比で総資産が342億円減少した。主な理由は、売掛金の減少と、のれんの償却により無形固定資産が減少したことだ。

負債は減少した。有利子負債が70億円増加したものの、未払費用等が減少したためだ。純資産は配当支払い等により44億円減少した。

有利子負債は7,108億円、D/Eレシオは0.52となった。

P11 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは501億円のキャッシュ・インとなった。主なものは税金等調整前当期純利益255億円、減価償却費260億円等だ。売掛債権の減少により、運転資金は前年同期比では増加している。

投資活動によるキャッシュ・フローは328億円のキャッシュ・アウトとなった。結果として現金及び現金同等物の期末残高は2,068億円となった。

P12 セグメント別売上高・営業利益増減内訳

「マテリアル」は、前年同期比減収・減益となった。営業利益は170億円のマイナスで、数量差が161億円を占める。基盤マテリアル事業とパフォーマンスプロダクツ事業を中心に、販売数量が減少した。

「住宅」と「ヘルスケア」は増収・増益となり、全体では、売上高が469億円の減収、営業利益が112億円の減益となった。

P4 第2四半期予想のポイント

2020年度第2四半期の営業利益は、「マテリアル」は第1四半期並み、「住宅」と「ヘルスケア」は第1四半期比増益と予想している。「マテリアル」では自動車生産台数の回復が見込まれることから関連事業の回復を見込んでいるが、一部製品につきサプライチェーン上の生産調整等で、第3四半期以降に出荷がずれ込むことを見込む。

2019年度第2四半期比では、「マテリアル」と「住宅」は減益、「ヘルスケア」は増益、グループ全体としては減益を予想している。「マテリアル」では、第1四半期と同様に石化原料市況の悪化や、自動車関連、アパレル関連の需要減退の影響を見込む。

「住宅」は、不動産部門の分譲事業は堅調に推移すると見ているが、建築請負部門では新型コロナウイルス感染対策の3密防止策のため工事が遅延し、引渡棟数の減少を予想している。

リフォーム部門も新型コロナウイルスの影響で受注減となる見通しだ。なお、建築請負部門の受注は、展示場の来場者数が徐々に回復していることや、IT を活用したデジタルマーケティング等の強化により、回復していくと予想している。

「ヘルスケア」は、医薬・医療事業では、第1四半期同様に Veloxis ののれん等の償却負担があることや、新型コロナウイルス影響、国内の償還価格改定影響等により、減益を予想している。一方クリティカルケア事業は、人工呼吸器の需要増等で増益を予想している。

P5 2020年度通期業績予想について(1)

新型コロナウイルス感染拡大の影響については、世界各国の感染拡大状況、経済政策、市場回復等、依然として予想困難だが、感染対策を行いながら経済活動を回復していく大きな流れは継続していくものと思われる。2020年度下期および通期の営業利益予想は、市場環境の先行きの見通しが不透明であるため、特に事業活動範囲の広い「マテリアル」については、レンジでの予想とさせていただいた。

2020年度上期から下期の営業利益の推移について、「マテリアル」は増益を見込んでいる。自動車生産台数の回復等により関連の事業が改善することや、AN等の石油化学製品の需要回復と交易条件改善を期待している。

「住宅」は、活動制約が徐々に緩和されていくことを想定し、若干の増益を予想している。建築請負部門の受注も、第2四半期と同様に徐々に回復を予想する。

「ヘルスケア」は、減益を予想している。上期は人工呼吸器を中心に好調を見込むが、下半期にかけ新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き、人工呼吸器の需要は落ち着いていくと想定している。また、医薬・医療事業の固定費が下期発生型であることを加味している。

P6 2020年度通期業績予想について(2)

通期では、「マテリアル」は2019年度対比で売上高は15%前後の減収、営業利益は50%前

後の減益を予想する。自動車・衣料関連で新型コロナウイルスの影響を強く受けるためだ。

「住宅」は5%程度の減収、30%程度の減益を予想している。「ヘルスケア」は2019年度に買収した Cardiac Science Corporation と Veloxis の寄与もあり15%以上の増収、25%増益を予想している。

これらの合計に、全社費用の削減等を織り込んだグループ全体の2020年度営業利益予想は1,200~1,300億円であり、前年度比で30%前後の減益となる。厳しい経営環境が続き予断を許さない状況であるが、引き続き、固定費の抑制、在庫の削減に努め、環境変化に応じて随時的な経営判断を行うことで業績改善を図っていく。

株主還元方針については、安定配当且つ継続的な増配を目指すという方針に変更はない。中間配当については、不透明な状況に鑑み、第2四半期の業績並びに通期の業績予想を踏まえ、上期が終わった段階で決定する予定だ。年間配当についても、通期業績および次年度の新型コロナウイルス感染拡大影響を見極めた上で決定する。

【質疑応答】

モルガン・スタンレーMUFG証券・渡部氏 「マテリアル」は、新型コロナウイルス影響下でかなり健闘した利益だと思うが、各サブセグメントではどのような動きがあったか。特に、基盤マテリアル事業やパフォーマンスプロダクツ事業に関しては在庫受払差の影響等が出ていると思うが、2019年度第4四半期から2020年度第1四半期、第2四半期と、どのように見ているか。

高橋 基盤マテリアル事業の営業利益は、第4四半期の4億円に対し第1四半期はマイナス17億円で、22億円の減益となった。第4四半期はナフサクラッカーのトラブルが約15億円の減益要因となっており、本来その分は第1四半期にかけてプラスに効くのだが、それ以上に

原料市況下落による在庫受払差や、AN 販売数量の減少の影響が大きかった。

第 2 四半期の営業利益は 12 億円で、第 1 四半期からは 29 億円の増益を予想している。原料市況下落による在庫影響は軽減され、また、ABS 樹脂を中心に AN の誘導品の需要が徐々に回復してきていること等による。

桑葉 パフォーマンスプロダクツ事業では、2019 年度第 4 四半期から 2020 年度第 1 四半期にかけ、衣料関連市場の影響を受けた繊維系が減益となった。旧高機能ポリマー系では、合成ゴムは第 1 四半期に原料価格が大きく下がったことから若干増益となったが、エンジニアリング樹脂は販売数量の減少により減益となった。消費財系は、巣ごもり需要等が寄与し増益となった。

第 1 四半期から第 2 四半期にかけては、繊維系や旧高機能ポリマー系で販売数量の回復を見込む。繊維系は増益の見通しだ。合成ゴムは原料価格下落の影響を期ずれで受けるため販売価格が下がり減益、エンジニアリング樹脂は増益と予想している。消費財系は、販売数量は堅調に推移する見込みだが、事業活動の活発化に伴い固定費が増加することから、減益と予想している。

杉山 決算説明会資料 32 ページの四半期業績推移を見ると、2019 年度第 4 四半期から 2020 年度第 1 四半期にかけて、スペシャルティソリューションは減収・増益になっている。自動車関連で鉛電池用セパレータや電子部品等がかなり落ち込んだ。一方で LIB 用セパレータは堅調に数量を伸ばしており、電子材料系では 5G の通信インフラや、いわゆる「巣ごもり需要」でタブレット向けの製品が伸びている。それらに加え、固定費の抑制を行った。

第 1 四半期から第 2 四半期にかけては、売上高はほぼ横ばいで、営業利益はかなり落ちる見通しだ。電子材料系の自動車関連製品はやや上向くが、あまり大きなプラスではなく、一方で第 1 四半期にあった巣ごもり重要が一服する。

電子部品は、他の製品と違って車載用途製品の落ち込みが一番大きくなるのが第 2 四半期となる見込みだ。

渡部氏 2 つ目はクリティカルケアに関して、第 1 四半期、第 2 四半期と、第 3 四半期以降の人工呼吸器の動きを教えてください。それが難しければ、人工呼吸器以外の従来製品の売上高の動きについて伺いたい。

柴田 人工呼吸器に関しては、米国政府からの受注分の大部分は上期に出荷できると見ている。第 3 四半期以降は、新型コロナウイルス感染拡大状況の見通しが難しく、下期の予想に大きくは織り込んでいない。

人工呼吸器以外の製品に関しては、AED 等が新型コロナウイルス影響で出荷が多少伸び悩んでいるが、病院向け除細動器、(着用型自動除細動器)「LifeVest」は堅調に推移している。下期にかけては、新型コロナウイルス影響の見通しは不透明だが、従来のようなペースである程度伸びていくと予想している。

渡部氏 人工呼吸器の売上高は第 1 四半期と第 2 四半期で同程度か。

柴田 第 2 四半期の方が多い。クリティカルケア事業の第 2 四半期予想にも人工呼吸器の貢献を大きく織り込んでいる。

渡部氏 第 1 四半期の売上高は従来製品が中心ということか。

柴田 人工呼吸器もそれなりに入っている。

野村證券・岡崎氏 LIB 用セパレータの販売数量について、第 1 四半期なのでいつもの指数は開示が無いと思うが、車載用、民生用でそれぞれどのような動きだったか。また、第 2 四半期以降の見通しや景況感について教えてください。競合他社では、中国のセパレータメーカーとの競合等により価格競争が以前より厳しくなっているという話があったが、当社ではどうか。

福田 LIB 用セパレータの販売数量は、2019 年度第 4 四半期から第 1 四半期にかけて増加した。湿式はノートパソコン、タブレット PC 等の情報通信機器向けの需要が好調だったこと、

乾式はESS（エネルギー貯蔵システム）の市場が回復したことによる。車載関連では、顧客の工場の操業停止や認定作業の一時的な停滞等を含め、新型コロナウイルス影響を湿式・乾式ともに受けたが、それを上回って増販となった。

第1四半期から第2四半期にかけては、新型コロナウイルスの影響が緩和することを見込み、販売数量は増加すると見ている。第1四半期実績、上期見通しともに、前年同期比で3割弱程度の増販を見込んでいる。

価格に関しては従来と大きな変化はなく、引き続き顧客との間で厳しい価格交渉を行っている。

岡崎氏 第4四半期から第1四半期に関しては、ノートパソコン・タブレット向け、ESS向けが伸びて、車載向けは新型コロナウイルス影響等により伸び悩んだと理解した。第2四半期にかけては、それらが各々堅調で、特に車載向けが回復するというイメージか。

福田 そのとおりだ。

岡崎氏 2つ目は人工呼吸器に関する確認で、米国政府からの350百万ドルの受注は基本的には第1四半期と第2四半期に出荷し、下期には見込んでいないという理解でよいか。

柴田 ほとんどを第2四半期までに出荷する見込みだが、第3四半期以降に出荷するものもあると考えている。

岡崎氏 追加の受注という意味か。

柴田 そうではなく、350百万ドルの内訳として、第1四半期、第2四半期、第3四半期以降にそれぞれ出荷があると見ている。

岡崎氏 「ヘルスケア」で、上期から下期にかけて売上高が200億円程度減少するよう思うが、これは人工呼吸器の減少が中心か。

柴田 下期の見通しは営業利益を中心に考えており、売上高は具体的に紐付けされた数字ではないため、今回は数字を出さずに定性情報として記載している。製品構成によってかなり変わるの、ざっくりとした定性情報として理解してほしい。

岡崎氏 人工呼吸器の増加がクリティカルケア事業全体の利益率上昇に寄与しているという認識でよいか。

柴田 詳細な情報は開示していないが、基本的には従来から中心となっている事業のほうが収益率は高い。当社の人工呼吸器はもともと大量生産していた製品ではなく、大幅な増産対応等で費用もかかっていることもある。

岡崎氏 クリティカルケア事業の営業利益率は、2019年度第1四半期は12%、通年では13%程度だったが、2020年度第1四半期は17%、第2四半期予想は22%とかなり良くなっている。これは人工呼吸器以外の要因によるものか。

柴田 「ヘルスケア」全体に言えることだが、製品構成によってかなり収益率が変わるので一概には説明できない。医薬事業では導入品と自社開発品で収益率は大きく異なり、医療事業でも製品構成差の影響は大きい。

みずほ証券・山田氏 「住宅」に関して、建築請負部門の引渡しは思ったより着実に行われており、リフォーム部門や建材事業もあまり落ち込んでいない。第2四半期以降は第1四半期よりも制限が無くなり状況が改善していくので、業績は第1四半期が底と考えていいのか。第1四半期に新型コロナウイルス影響による追加的な費用発生はあったか。

また、建築請負部門の受注は第1四半期には大幅に落ちており、その一部は第4四半期の売上高に悪影響を及ぼすと思うが、実際にそれが出てくるのはいつ頃か。新型コロナウイルス影響の現状を踏まえて、第2四半期以降の新規受注に対する考え方等について説明をお願いしたい。

坂井 第1四半期の引渡しは、冒頭にも説明があったとおり2019年度からのずれ込みもあり、比較的順調だった。一方で3密対策等を含めて工期の遅れが生じており、第2四半期以降に影響が出てくると見ている。受注については、第1四半期はかなり厳しい状況だった。この影響は下期の引渡しに出てくると考えている。リフ

ホーム部門は、建築請負部門よりも受注から売上計上までの期間が短いため、第1四半期の受注低迷の影響は足元の第2四半期にも出てくると予想している。

建築請負部門の受注は、第1四半期は制限も多く相当悪い数字となったが、第2四半期以降は展示場来場者数もある程度戻ってきている。ただ、下期も従来並みまでは回復しないだろう。リモートミーティング、ウェブ上でのバーチャル展示場、オンライン見学会等、さまざまな対策を打つことで、受注の回復を図っていききたい。

山田氏 緊急事態宣言期間中は展示場を完全に閉めていたと思うが、その後は開けており、従来の営業体制もある程度戻っているのに加えて、オンライン型の受注も進んでいるという理解でよいか。

坂井 4-5月の状況と比べると、展示場で接客ができる状況まで改善したが、展示場そのものへの来場数はまだ従来並みには戻っていないことや、新型コロナウイルス対策を前提とした接客を行っていること等により、第1四半期よりは改善しているものの影響は残っている。それを完全に補うまではいかないが、リモートミーティング等の新しい手法で回復に努めている状況だ。

山田氏 新型コロナウイルス影響による費用の増加は特に無かったか。

坂井 特に無い。

山田氏 2点目として、「ヘルスケア」で新規連結された Veloxis について、年率 30%程度の成長を見込んでいたと思う。第1四半期はその程度に伸びているようにも思うが、新型コロナウイルス影響も踏まえ、状況はどうか。また、PPA (Purchase Price Allocation) の状況はどうか。

柴田 新型コロナウイルスの影響で米国の腎移植手術の件数が減っており、Veloxis もその影響を受けているが、基本的にはほぼ計画どおりに推移し、順調に3割程度の拡大をしている。

PPA に関しては、償却額が年間で約 120 億円

となり、第1四半期に約 30 億円が入っている。決算説明会資料 10 ページの注記をご覧ください。

大和証券・梅林氏 医薬・医療事業について、2020 年度第1四半期の営業利益は、Veloxis ののれん等償却費が 30 億円程度発生していることを考えると堅調な印象だ。前年同期比で増収は 20 億円程度に留まることから、営業利益が堅調な要因は製品構成差による改善ではないかと考えるが、(ウイルス除去フィルター)「プラノバ」の販売数量増加等が背景にあるのか。あるいは費用の減少があったのか。

柏木 医薬事業に関しては、2019 年度に発売した(骨粗鬆症治療剤)「テリボン」のオートインジェクターを中心に事業を伸ばしていく計画だったが、第1四半期は新型コロナウイルスの影響で MR の営業活動が殆どできず、当初期待していた売上高は達成できなかった。一方、営業活動に関わる費用は減少し、営業利益は前年同期並みとなった。

上期、通期の想定としては、MR の営業活動再開に伴い売上高を伸ばしていく計画だが、国内の新規製剤の研究開発費用が第2四半期に増加することから、営業利益は前年同期並みもしくは微減益の見込みだ。

梅林氏 医療事業はどうか。

濱本 第1四半期は、売上高は前年同期並み、営業利益は増益となった。ユーロ安の影響や一部製品の販売数量減少があったが、「プラノバ」の販売数量増加やそれに伴う稼働率上昇、新型コロナウイルス影響による事業活動費用減少等によるものだ。

梅林氏 2点目は基盤マテリアル事業の AN に関してで、全般的な経済活動が底を打ってきている中で、他の基礎化学品と比較しスプレッドの回復度合いが弱い印象を受ける。プロピレン市況が相対的に高止まりしていることもあると思うが、AN のマージンが低迷している理由をどのように捉えているか。また第1四半期と第2四半期の稼働率についても教えてほしい。

高橋 AN のスプレッドは、今後若干の回復は見込むものの、かなり縮小している状況だ。需要面では、ABS 樹脂メーカーの稼働率は、新型コロナウイルスの影響から早めに復調した中国を中心に高まっており、韓国においても改善している。アクリル繊維も、業界全体の動きはまだ不透明だが、徐々にメーカーの稼働率は上がってきている。一方供給面では、各社の定期修理等から5月頃にかなり減産があった。そこからの立ち上がりや、中国メーカーが新規プラントを6月末に稼働させたこと等から、足元では供給が増加し市況への下方圧力がある。プロピレン市況については、不織布用途の需要が好調であることや、供給トラブル等により若干高止まりしている。

需要は好調なもの、供給が増加し、プロピレン市況が高止まりしていることから、足元でANのスプレッドが縮小しているという状況だ。ただ、プロピレン市況も今後は落ち着いてくるものと思われるし、需要は回復しており、ANメーカー各社もこの先は減産に動くことと予想しているため、スプレッドは徐々に回復してくるものと考えている。

当社の稼働については、グループ全体で2019年度は80%程度で、2020年度4月以降は70%程度だ。今後、需要を見ながら判断していく。

岡三証券・西平氏 繊維事業の不織布等の需要に関して、第1四半期および第2四半期の状況を伺いたい。

桑葉 不織布では、自動車用途が大半を占める（人工皮革）「ラムース」において、2019年度第4四半期から2020年度第1四半期にかけて販売数量が大きく減少し、第2四半期にかけては回復を見込むという流れだ。スパンボンドを始めとする資材用途の不織布については、おむつ用途やマスク、医療用ガウン等の新型コロナウイルス関連の需要が増えていることから、堅調に推移している。

西平氏 2点目は住宅事業に関して伺いたい。

資材費や労務費は足元で下がっているという理解でよいのか。住宅事業のコスト面について教えてほしい。

坂井 資材費は、下がっているもの、上がっているもの、両方ある。資材費以外では、物流費が2019年度から上昇し続けており、これらを含めるとコストアップ要因の方が多い。労務費は、新型コロナウイルスの影響とはあまり連動していない。

三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券・大村氏 クリティカルケア事業の人工呼吸器について、米国政府からの受注については、契約上、2020年7月3日までに全量の供給が完了する予定であったと認識しているが、スケジュールに遅れがあり、第1四半期と第2四半期に分かれるような形になっているのか。

濱本 当初予定していた納期に対し、米国政府との調整や現地の医療の状況等を踏まえ、現在の予定となっている。

大村氏 かなりの部分が第2四半期にずれ込んだという理解でよいのか。

濱本 そのご理解で結構だ。

大村氏 2点目はスペシャルティソリューション事業に関して伺いたい。第1四半期から第2四半期にかけて減益の予想となる背景をあらためて詳しく教えてほしい。電子部品が大きな要因となる理解でよいのか。

杉山 第1四半期から第2四半期にかけては、自動車関連製品は回復していく見込みだが、電子部品は自動車市場減速の影響が遅れて出たため、第2四半期が底になると見ている。また電子材料では、巣ごもり需要に向けタブレット端末やノートパソコン等の材料を確保する動きが第1四半期にあり、第2四半期から出荷が前倒しされた部分もある。第1四半期から第2四半期にかけては、巣ごもり需要が一服することと、前倒し出荷の反動減により、大幅な減益を予想している。

[終了]